

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

【介護福祉科】

授業科目	授業科目の概要	実務経験のある教員等の内容	第1年次	第2年次
			時間数	時間数
介護過程	「介護」を提供するプロセスとして、情報収集、情報の解釈・分析、課題ニーズの明確化、介護計画の立案、実施、評価の一連の流れについて理解し、知識の統合を図る。事例演習を多く取り入れ、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、また、介護におけるICFの重要性の理解と活用ができることを目的とする。	介護施設の現場で介護に従事した実務経験のある教員がアセスメントの方法や介護計画の作成など介護過程の展開について教授する科目	60	90
介護総合演習	介護実習に向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力が身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようにすることを目的とする。	介護老人福祉施設の現場で介護に従事した実務経験のある教員が介護施設実習を通じて職業人・介護福祉士としての自己実現のために必要な要件や介護観形成などについて教授する科目	60	60
コミュニケーション技術	介護場面では利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要となる。コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技術を学ぶ。さらにコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法について学ぶ。	介護施設の現場で介護に従事した実務経験のある教員が利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するための介護実践に必要なコミュニケーション能力を教授する科目	30	30
人間関係とコミュニケーション	介護福祉士は対利用者だけではなく利用者の家族のほか、介護職員間や他職種連携など対象や場面に適した効果的な人間関係づくりが求められている。ここでは、さまざまなコミュニケーション技術を習得しながら人間関係づくりについて学ぶ。	介護施設の現場で介護に従事した実務経験のある教員が対人援助関係形成の基礎となる受容・共感・傾聴といった基本的態度や援助関係のための原則などについて教授する科目	30	
介護の基本	介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通じて理解する。安心かつ安全できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す危機管理や関係職種の連携のあり方などを理解する	介護施設の現場で介護に従事した実務経験のある教員が介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するしぐみを理解し介護福祉の専門職としての能力と態度を養うため教授する科目	120	60
生活支援技術	「こころとからだのしくみ」で学ぶ根拠に基づき、一人ひとり生活している状態を的確に把握し、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供できるよう、一連の流れを習得する。	介護施設の現場で介護に従事した実務経験のある教員が尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を教授する科目	150	150
合計			450	390
第1年次＋第2年次 合計			840	

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

【こども未来学科】

授業科目	授業科目の概要	実務経験のある教員等の内容	第1年次	第2年次
			時間数	時間数
保育実践演習	保育士として必要な使命感、責任感、人間関係調整力等の資質の向上のため、小グループの話し合い、集団討論等、他者との関わりを通じて培っていく。	35年間幼稚園・認定こども園にて従事し、うち主任・園長として従事し多くの保育教諭等を育成。	/	30
保育内容総論	保育所保育指針・認定こども園保育・教育要領を中心に5領域について理解を深める。	35年間幼稚園・認定こども園にて従事し、うち主任・園長として従事し多くの保育教諭等を育成。	30	/
言葉	保育所保育指針・認定こども園保育・教育要領における保育内容「言葉」について演習を通して理解を深める。	27年間現場で従事し、現在も継続中。特に親子のふれあい遊びやわらべ歌等の研修等を行っている。	30	/
子どもの食と栄養	現代の子どもの食生活を学び、食育に関する知識を得る。また発達段階に適した食等について学ぶ。	学士取得後、病院等で管理栄養士として20年従事。現在は認定こども園にて管理栄養士として従事。	/	30
こどもの保健 I	子どもの心身の健康増進を図る保健活動意義や身体的発育等について理解する。その他疾病・予防について学ぶ。	学士取得後、保健師として27年間従事。妊産婦等のアドバイザーや乳幼児健診等に携わる。	/	30
子ども家庭支援の心理学	生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期の発達的特徴について月齢・年齢ごとに適切に捉え理解する。	学士取得後、保健師として27年間従事。乳幼児健診等に携わる。	30	/
合計			90	90
第1年次＋第2年次合計			180	

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

【歯科衛生士】

授業科目	授業科目の概要	実務経験のある教員等の内容	第1年次	第2年次	第3年次
			時間数	時間数	時間数
放射線学	歯科で使用される画像検査の特徴と適応並びに放射線に対する正しい知識を習得する。2年次は1年次の知識をベースに臨床において活用できるように習得する。	現在は開業医で大学では歯科放射線学に勤務した実務経験のある教員が専門分野である放射線の基礎について教授する科目の授業を行う。	16時間	16時間	
解剖学	人体の構造と機能、また組織・発生についての概要を理解する。骨格系、筋と運動、神経系、呼吸、感覚、排泄、内分泌、生殖などについて理解する	大学卒業後研究室で学生の教鞭を取っていた実務経験のある教員が人体の構造と機能など歯科衛生士としての基礎となる知識について教授する科目の授業を行う。	30時間		
口腔解剖	顎・口腔の構造する骨、頭蓋の概要と機能について理解する口腔付近に分布する脈管系、動脈系、静脈系、リンパ系について理解する	大学卒業後研究室で学生の教鞭を取っていた実務経験のある教員が口腔と周囲組織の構造機能など歯科衛生士としての基礎となる知識について教授する科目の授業を行う。	30時間		
化学	生化学、栄養学、薬理学、歯科放射線学などの学問を理解するための科学的な基礎知識を習得する。物質の分類と構造、物質量について理解する	高校の教員では化学・生物・物理の実務経験のある教員が基礎分野の化学・生物学の授業について教授を行う。	30時間		
生物学	解剖学、生理学組織発生学などを理解するための生物学的な基礎知識を習得する。生命の変遷、細胞の働きや活動、遺伝子とその法則を理解する。	高校の教員では化学・生物・物理の実務経験のある教員が基礎分野の化学・生物学の授業について教授を行う。	30時間		
病理・口腔病理学	疾病の概念、その発生機序と病理学的特徴を理解する。歯と歯周組織並びに口腔領域に発生する疾患の病態を理解する。	一般歯科医院に勤務し歯周病の認定資格の実務経験のある教員が歯科衛生士として専門基礎分野である病理学の疾病の概念等について教授する科目の授業を行う。	30時間		
口腔外科学	口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と診断および治療方法の概念を理解する。歯科衛生士としての役割について理解する。	病院の口腔外科の現場に従事している実務経験のある教員が専門分野の歯科衛生士として基礎となる口腔外科学について教授する科目の授業を行う。		30時間	
矯正歯科学	不正咬合の治療意義と診断および治療方法の概念を理解する。歯科矯正の実際を学び歯科衛生士としての役割を理解する。	矯正歯科専門として標榜して開業している実務経験のある教員が専門分野の矯正歯科学の歯科衛生士として基礎的な知識を教授する科目の授業を行う。		32時間	

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

【歯科衛生士】

授業科目	授業科目の概要	実務経験のある教員等の内容	第1年次	第2年次	第3年次
			時間数	時間数	時間数
小児歯科学	小児の身体的・精神心理的特徴と小児の歯科治療の留意点を理解する。小児の対応法の要点を理解する。	小児歯科を標榜して開業している実務経験のある教員が歯科衛生士として専門分野である基礎となる知識について教授する科目の授業を行う。		16時間	
高齢者・障害者歯科(摂食・嚥下を含む)	摂食・嚥下の概要と摂食機能訓練法の基礎知識を理解する。摂食・嚥下に関する解剖・生理とその障害を理解する。	開業医であり訪問歯科の実務経験のある教員が摂食・嚥下について歯科衛生士としての基礎となるメカニズムについて教授する科目の授業を行う。			16時間
合計					
			第1年次＋第2年次＋第3年次 合計	276	